

希学園 第403回 小2公開テスト 解説動画

下記、URLよりご視聴いただけます。

動画タイトル	URL
第403回公開テスト 小2国語 解説動画(2025年12月14日実施)	https://vimeo.com/1146147773/b17c2e4648

① 大木
② 竹
③ 森林

④ じょうず
⑤ あまおと

② ① メネス(王)
② 水と養分

③ イ
④ 太陽神の子

⑤ I 2
II 1

③ ① オ
② ウ
③ キ
④ カ
⑤ ク
⑥ イ

④ ① はやし
② おじいちゃん

③ ウ
④ ふきのとう

⑤ ア
⑥ さかだちができる

配点

① 各2点×5=10点

②~④ 各5点×18=90点

<計>100点

① 「大」を「ダイ」でなく「タイ」、「木」を「モク」でなく「ボク」と読むことばである。もちろん大きな木のことである。
② 「竹」は「チク」とも読む。三画めの最後はトメル、六画めの最後はハネル。③ 「森林」はとてもたくさん木が生いしげ
ていところ。④ 「じょうず」の反対は下手。ほかにも「うわて・したて」「かみて・しもて」とも読むことばである。それぞ
れの意味を調べておこう。⑤ 「雨音」は雨の音だが「あめおと」とは読まない。

② 谷川彰英 監修 『国際理解にやくだつ NHK 地球たべもの大百科⑩ エジプト 豆料理』より
(設問の都合上、表記の一部を変更しています)

1 本文には「最初の国王」と書いてあったが同じことである。ときどきカタカナを書きまちがう受験生がいる。もったいな
いミスで失点しないようにしてほしい。

2 「はんらん」ではない。「豊か」は、たくさんあることをよい意味にとらえたことばなので洪水のことである。「はんらん」
にはふさわしくない。「夏」に「ナイル川」が「あふれる」Ⅱ「はんらん」するおかげで「農地」に「水と養分」が「たっぷ
り」とゆきわたり、「作物がたいへん育ちやすい」のであった。「ほとり」は近く、すぐそばのこと。

3 「紀元前」は紀元元年Ⅱ西暦一年からどれほど昔なのかということである。今が西暦二〇〇〇年を過ぎたところなので、
三〇〇〇年と二〇〇〇年を足せば正解となるのである。また、「古代エジプト王国の誕生」が「最初の文明が生まれた」こと
で、それが「五〇〇〇年以上も前」だということ、そこから「四〇〇〇年ほどたった」ら「紀元前二六〇〇年ころ」になる
ことから考えれば、「紀元前」の数え方が理解できたのであった。

4 「〜と考えられていますか」という問い方がヒントになっていた。「ファラオの墓と考えられています」とあった。ただ
し、「ファラオ」では指定の字数に合わない。その前の行に「ファラオ(王)は太陽神の子であるとされていました」とあ
るので、「ファラオ」Ⅱ「王」Ⅱ「太陽神の子」と「考えられて」いたことがわかる。

5 I 「ほかのどこよりも古くから」があやまりである。「世界でもっとも古くから文明が発達した場所の一つ」とあった。
「〜の一つ」ということは「ほか」にも同じくらい「古くから」「発達した場所」があったということなので、「ほかの
どこよりも」「古い」とは言い切れないのである。

Ⅱ 「クフ王のピラミッド」は「古代エジプト王国の誕生から四〇〇〇年ほどたった」「時代に建てられた」とあった。

③ 行事に関する食べものを答える問題である。ほかにもどんなものがあるか調べてみよう。

① 「一月一日」は元日で「おぞうに」やおせち料理を食べて、おとそを飲む。

② 「一月七日」は人日の節句で、春の七草を入れた「七草がゆ」を食べる。

③ 「二月三日ころ」は節分で、豆まきをして年齢の数(プラス一)だけ炒り豆を食べる。最近では恵方巻きなども食べる。

④ 「三月三日」は桃の節句(ひなまつり)で、ちらし寿司・蛤のお吸い物・ひしもち・「ひなあられ」を食べて白酒を飲む。

⑤ 「五月五日」は端午の節句で、「かしわもち」やちまきを食べる。寿司や焼きなどごちそうを食べることもある。

⑥ 「十二月三十一日」は大みそかで、「年越しそば」を食べる。寿司や焼きなどごちそうを食べることもある。

※ 「チョコレート」は二月十四日のバレンタインに好きな人や友人知人に贈る。
「ぼたもち」は三月二十一日ごろの春分の日に食べることが多い。

④ もりやまみやこ『おはなしぼつちり (4) 冬』より (設問の都合上、表記の一部を変更しています)

1 「きょうも」「はいり」「れんしゅうをはじめ」るところ(場所)である。「いえのうらははやしのなかで、ずっとひとりで、
れんしゅうをしてきた」とあった。

2 「ふきのとう」のことを「しらせてあげ」る人のことである。

3 目を細めるは、うれしいことがあったり愛らしいものを見たりして、目を細くしてうれしそうにすることである。

4 もちろん「タツヤ」が「みつけた」「ふきのとう」のことである。「ふきのとう」の色や形を知らなくても場面のようにす
を思えば、すぐにわかったはずである。

5 指示語が「さしていること」がいつも直前にあるとは限らない。今から言うことは「ないしょ」だと前置きしているので
ある。こういうことも日ごろから本をたくさん読んでいけば、理解しやすいものである。

6 「ないしょ」にしたいのは「さかだちができるように」「なった」ことである。「きょう」は「四、五びょうはもった」の
だが、「五びょうぐらいへいきでたてるようになるまでは、おとうさんにもおにいちゃんにもだまっているつもり」なのであ
る。